

町指定文化財(工芸品)

いちげとくりん

「刀剣(市毛徳鄰作)」

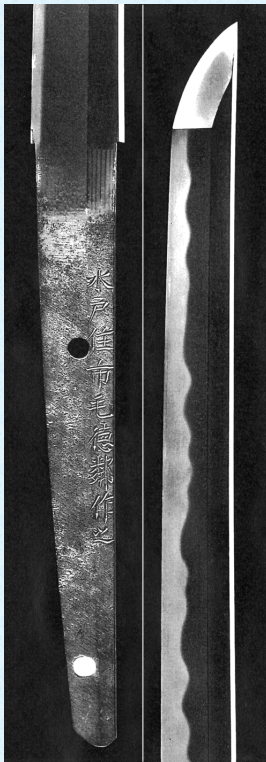
指定年月日/昭和五〇年三月三日

所在地/城里町増井

管理/所有者/個人

町指定文化財「刀剣(市毛徳鄰作)」は、水戸随一の刀工とされる市毛徳鄰が鍛えた刀で、(財)日本美術刀剣保存協会から重要刀剣に指定された傑作です。刀身は鑄造で、長さは七二・三センチメートル、反りは一・三センチメートルです。地鉄は小板目肌で地沸が細かく付

き、刃文は小湾れに互の目を交え、句口は明るく冴えています。中心(柄に入る部分)の表には「水戸住市毛徳鄰作之」、裏には「文化十一年八月日」の銘文が刻まれています。市毛徳鄰は、安永六(一七七七)年、茨城郡開江村(水戸市開江町)



常北郷土文化研究会「常北の文化(第一六号)」より作版

で代々鍛冶を営む市毛源左衛門の子として誕生しました。母は上坪村(城里町)の桐原氏です。一八歳の時に、水戸藩士久米新七郎長徳から鍛刀術を学びました。その後大坂の尾崎助隆にも入門したとされますが明らかではありません。三三歳で水戸藩櫓方細工人に登用され、五四歳の時には上京し近江介を受領します。天保六(一八三五)年、五九歳で病没し、水戸の神崎寺に葬られました。

「城里町の文化財さんぽ」は、今回をもって全五八話が完了しました。長い間ご愛読いただき、ありがとうございます。

解説文/町文化財保護審議会長 小山映一  
問合せ 教育委員会事務局  
☎029-1288-3135

小山映一会長には、平成二十七年六月より「城里町の文化財さんぽ」を執筆いただきました。長い間、ありがとうございます。

俳句

前方に梅園微風しきりなり

今瀬 多代美

ひそひそと年をかきかねて七日粥

瀬谷 博子

ひとつずつ老舗草餅東寺前

中野 千賀子

目の痛み癒され梅の匂ふなか

綿引 英子

行く雲と行かぬ雲あり冬の畦

飯田 勇一

湯ぎめして立つてるなり紙ストロー

竹内 幸子

陽を抱きて大地に息吹く福寿草

仲田 まちゑ

春光を撥ね交はしてみる野の起伏

田口 勝元

北風に天まで昇れ奴風

羽石 雅春

お互いに振り向いてをりマスクして

寺門 孝子



川柳

千ピでデブ短足だけど俺元氣

富田 多蔵

枝は枯れても花が咲きますカラオケ大会

車田 綾子

雑草も一生懸命生きています

飯村 孝一

ネコの手も借りたときやさくら咲き

川原 清

文芸しろさと

短歌

夕ぐれの空一面にあかね色合  
飲の木静かに葉を閉にけり

杉山 みちこ

時刻み大樹となりしいちよう樹  
のその高さこと目まい覚ゆる

大森 久子

願わくはこの末孫の成長を  
一目見せたし黄泉の夫に

佐川 あや

さらさらと蓮葉の上の水玉  
が風にゆれるて光を放つ

所 美恵子

それぞれに色なして紅葉して  
ゆけり里山はひそと秋深みゆく

渡辺 千紗子

子の家の玄関に咲ける福寿  
草令和の御世を寿ぐごとし

山形 式妙

夕ぐれは裏の山より流れきて  
我が立つ庭をあかく染めゆく

島 愛子

春宗会わたしが一番最年長  
過去振り向かずパワーで前進

信田 育子

透き徹るごと美しき翼広げ  
白鳥は飛ぶ古徳の空に

富田 佐智子

娘につきて小石拾いの小さ  
き旅畦土手河原静かなる冬

萩谷 登喜子

おもいきり泣きたい思い抑え  
耐えいつしか泣けぬ己が哀し

菌部 光子

